

【事例3】高次脳機能障害についての知識はあったが・・・ ～息子が高次脳機能障害とは思わなかった～

急性期後はてんかんの治療だけ受けていたが、就職活動が上手く行かない様子を見て、家族相談会へ。高次脳機能障害と診断され、手帳と年金を取得し、クラブハウス・シェイキングハンズへの通所を経て、就労を果たした。

記憶	明らかに障害あり。
言語	失語はないが…
障害の自覚	部分的にはある。
その他	状況判断など高次脳機能障害に特有の問題は多々あり。

1 基本情報

記載：母

当事者	現在の年齢 37 歳（受傷時 23 歳） 男性	
家族	父 母 妹二人	
障害起因 《事 故》	発生状況	交通事故
	傷病名	脛骨開放骨折、骨盤骨折、頭蓋骨骨折、脳挫傷、左急性硬膜外血種
障 害	症 状	高次脳機能障害、構音障害、嚥下障害
	認 定	精神障害者保健福祉手帳 2 級、障害厚生年金 2 級
	身体障害	なし

2 これまでの歩み

時 期	事 項	要 旨
H19（2007）年 2月～6月	事故発生・入院	<ul style="list-style-type: none"> 千葉県在住時、仕事から帰宅途中の 20 時 40 分ごろ横断歩道を歩行中、400CC のバイクにはねられる。 救急搬送され手術。術後、高度意識障害、右不全片麻痺をきたす。左手は管を抜こうとするため抑制。 13 日目に気管切開。 27 日目頃、少しずつ意識が戻り始める。麻痺も改善。 29 日目、車いすに移乗し 10 分座る。 30 日目、経口摂取開始。リハビリが順調に進み、松葉杖歩行。少しずつ記憶も戻る。 68 日目、頭蓋骨を入れる手術。 92 日目、松葉杖で歩行可能になり、退院。
H19（2007）年 6月～ H22（2010）年 12月	呉医療センター に通院	<ul style="list-style-type: none"> 実家に戻り、呉医療センターに通院。 H20 年 2 月までは月 1 回の通院と内服治療。 H20 年 4 月からは 2 か月に 1 回の通院服薬治療。同月、てんかん発作発症。

		<ul style="list-style-type: none"> ・この頃、ハローワークへ通い、情報誌やネットで仕事を探す。外出時には手に持っていた荷物をバスやJRに忘れてくることが多く、体から離さないよう対処。 ・メモを取るよう言われていたが、忘れることが多い。
H23 (2011) 年 5月～ H26 (2014) 年 9月	呉医療センター	<ul style="list-style-type: none"> ・H23年5月にもてんかん発作。 ・H24年7月から3か月に1回の通院、内服治療 ・H26年9月で内服治療終了。
H23 (2011) 年 1月～ H26 (2014) 年 2月	契約社員として 社会保険庁に勤務	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保険庁でPCでの照合の仕事に就く。社会保険庁が年金記録問題で大変な時期で、照合だけの作業に多くの人手が必要で、作業が単調だったため続けることができた。しかし、パスワードを覚えられず、毎回書類を確認する必要があり、仕事を始めるのが遅いなど、度々注意される。 ・口内炎を再三患い、ストレスがかかっていたように見えたが、本人は感じていない。
H26 (2014) 年 3月～	就職活動(不調)	<ul style="list-style-type: none"> ・契約社員としての期間が終了し、再度ハローワークや情報誌で仕事を探す。 ・履歴書に「交通事故に遭い。記憶障害がある」と記入し、書類選考で10数社落ちる。面接に2、3社行ったが、結果はすべて不採用。 ・その後、契約社員として採用されたこともあったが、言葉だけでは覚えられない、何回も手順書の確認が必要、自分で判断がつかないなどのため、3日で解雇になることが2回あり。
H27年 (2015) 3月～4月	サポートネット ひろしまに相談	<ul style="list-style-type: none"> ・呉医療センターからは、症状が落ち着いているため、1年後の受診でよいといわれ、途方に暮れる。 ・4月に高次脳機能障害サポートネットひろしまに相談。高次脳機能障害の検査のできる病院を紹介してもらい、自立のための訓練をしているクラブハウス・シェイキングハンズ(クラブハウス)のことも知る。

H27年(2015)年 5月	西広島リハビリテーション病院 通院 クラブハウス・シェイキングハンズ(クラブハウス)見学・体験	<ul style="list-style-type: none"> ・高次脳機能障害の神経心理学検査を受けるために通院を始めた。また、高次脳機能障害の講演会に参加した。 ・クラブハウスを見学・体験する。クラブハウスでは自己紹介ができず、紙に一つ一つ書いてもらい、やっと自己紹介ができた。
H27(2015)年 7月～	クラブハウス就労継続支援B型(ワークステージ)利用	<ul style="list-style-type: none"> ・就労継続支援B型(ワークステージ)の利用を開始。通所でいろいろなことが見えてくる。 ・新しい鞆を買ったが、古い鞆を置いてくることができず、2つ持つ。クラブハウスで職員と一緒に中身を整理して、鞆が一つになる。
H29(2017)年 1月～ H31(2019)年 3月まで	クラブハウス就労移行支援(チャレンジ)利用	<ul style="list-style-type: none"> ・就労移行支援に移り、就職の準備を開始。就労移行支援の利用期間は、H30年12月末までの2年間であったが、H30年7月、呉の豪雨災害のため、特例的な手続で、3か月の利用期間の延長を認めてもらい、2月に就職が決まる。
H31(2019)年 2月～現在	ホテルに就職	<ul style="list-style-type: none"> ・ホテルに就職し、週5日、1日5時間の勤務を休むことなく続ける(新型コロナウイルスの影響を受け、R2年5月からは週3日の勤務)。 ・さらに、ホテルの経営不振のため、R2年10月に契約打ち切りと言われていたが、Go To トラベルキャンペーンが幸いしたのか、契約続行となる。

3 家族会とのかかわり

(1) 出会い

高次脳機能障害やクラブハウス・シェイキングハンズ(クラブハウス)のことは職場からの研修会に参加して知っていた。その時は自分の息子が高次脳機能障害とは思っていなかった。しかし、就労に何度も失敗する息子を見て、電話を掛けたことで、つながりができた。

(2) 得られた情報など

事故後に受診していた病院からは、高次脳機能障害とは聞いておらず、てんかんの投薬治療のみだった。てんかんの症状が落ち着くと、治療終了と言われ、困っていた。サポートネットひろしまに相談をして高次脳機能障害の検査のできる病院を紹介してもらい、さらに言語聴覚士にも検査をしてもらって、これまでの息子の症状が高次脳機能障害のせいだと腑に落ちた。おかげで障害年金も取得でき、クラブハウスの就労支援を受けて、一般就労もできた。

4 生活の中でのエピソードや障害を理解して工夫していること

(1) 日常生活でのエピソード

- ・持ち物（傘や鞆）から手を離すと、忘れてしまうことが多い。このため常に身に着けるようにしている。
- ・痩せてきたのでおかしいと思い、本人に聞くと、昼食を食べていないことが分かった。本人は「お腹が空かないから」と言うが、どこで食べるか決められなくて、食べなかったのだろう。
- ・自宅から市内中心部まで（車で 30 分、歩けば 2 時間かかる距離）いつも歩いていた。本人は、「お金がなくて、時間はあるから。歩けばいつかたどり着けるから」と言う。
- ・自分の部屋を片づけられない。
- ・余計なものを買ってくる。本人によれば CD を整理しようと思ってケースを買ってきたが、なかなか進まないらしい。そのような物がいっぱいある。
- ・お金の管理を一人ではできない。必要な時に母からもらっている。クラブハウスでの面談でカードローンがあることが分かった。母も知らなかった。何を買ったのかと聞くと、定期が切れそうになって買いに行ったところ、お金が足りずカードでリボ払いのローンにしたと言う。「定期代?」「リボ払い?」一同、びっくりした。すぐに母が残額を清算し、カードは没収した。利息のことなど全く考えずに借りたのだろう。
- ・衣類は母が準備している。季節が変わっても同じ物を着ている。暑さ寒さも感じないようで、注意しても聞き入れない。また、自分に合った服が選べず、こだわりがあるのか、明らかに大きすぎる服を着ている。
- ・外出時に傘を持っていくかどうか、天気予報で確認をしているが、自分では決められない。細かいことも判断ができない。
- ・税金、年金関係の大切な手続は自分ではできない。
- ・簡単な買い物はしているが、同じものを頻回に買っている。

(2) 豪雨災害の時のエピソード

- ・豪雨災害の時、断水が続いたため、汲み置きの水を使わなければならなかった。朝、どの水で顔を洗ったらよいのか分からない様子だったので、お風呂に溜めた水を使うよう伝えると、洗面器にとり、顔を洗っていた。次に、風呂の残り湯でうがいをしようとしたので、「うがいは使えない水」と説明をしたが、理解できない様子で不思議そうな顔をしていた。「だったらどの水を使ったら良いの?」と聞いてきたので、ペットボトルの水を渡した。
- ・また別の日、トイレ後の手洗い用に、洗面器に水を用意しておいたが、手洗いをして、その水でうがいをしていた。慌てて、「それは使えない」と言うと、キョトンとしていた。清潔・不潔の観念が全くないことに驚いた。
- ・断水のため、家族が水の確保に奮闘していたが、手伝おうとしない。自分には関係ないような態度が見られた。手伝うように指示しないと動けない。
- ・入浴は、知り合いの介護施設を利用させてもらっていた。2~3 家族が入るため、自宅のようにゆっくりとは入れないことを説明し、10 分位で済ませるように言ったにも関わらず、一人で 40 分くらいかけて入っていた。
- ・精神科の受診日がお祭りの日と重なっていた。道路の渋滞が予想できることから、受診日を

変更するように言ったが、どうしても変更ができなかった。結局、その日は受診後、4時間近くかけて帰宅した。

5 家族からのメッセージ

私自身介護の仕事をしていて、高次脳機能障害の知識はあったにもかかわらず、当初は、事故に遭った息子が高次脳機能障害とは考えなかった。毎日接しているが、できていると思い込んで見ていると、大きな問題が起こらない限りなかなか気が付かないものだと痛感した。

就労がうまくいかないことでやっと気付いて、サポートネットひろしまとの出会いがあったため、いろいろな福祉サービスのことや年金の申請のことなどを教えていただいた。まだまだこの会につながらなくて困っている人が多いのだろうと思うと、運が良かったのだろう。もっと社会全体が、この障害の理解を進めなければならないのだと思う。